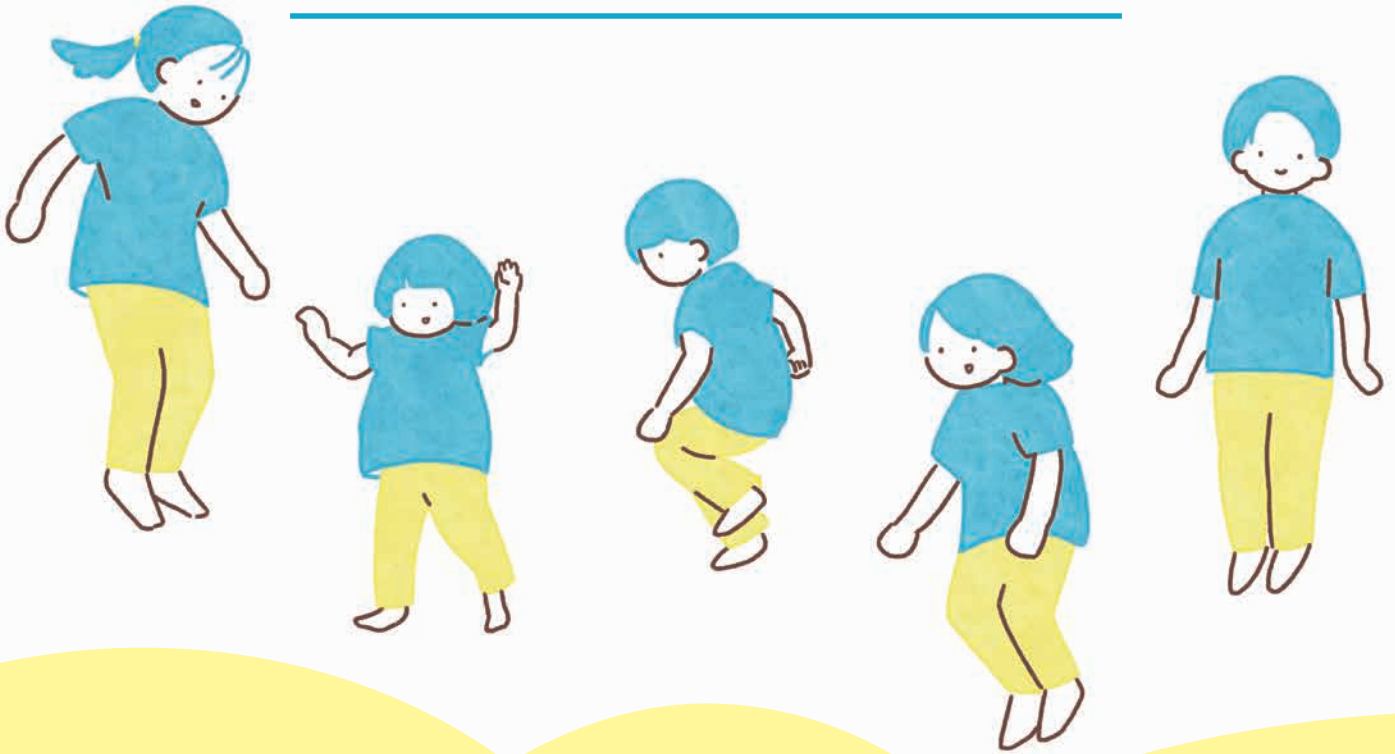


不登校児童生徒支援 リーフレット

～すべての子供たちに魅力ある学校生活を～



鹿屋市における、令和3年度までの不登校児童生徒は、110人から120人程度で推移していましたが、コロナ禍を経て、令和6年度には約250人となり、この3年間で約2倍強になりました。

鹿屋市教育委員会では、不登校児童生徒支援としての「心の架け橋プロジェクト」事業に加え、市内全ての小中学校で、新たな不登校児童生徒を生まないための取組である、魅力ある学校づくりの一つとして、『構成的グループエンカウンター』を実践しています。

不登校児童生徒への支援に当たっては、学校、家庭、地域はもちろん、教育支援センターや公的関係機関、民間団体等が連携していくことにより、社会的に自立し、豊かな人生を送れるようサポートすることが大切だと考えます。

このリーフレットは、不登校児童生徒に関わる教職員及び保護者、そして関係機関等の職員が、不登校の捉え方や支援の在り方等について理解を深めるとともに、リーフレットを見た全ての方がチームとして連携し、支援を充実させる一助となるよう作成しました。

鹿屋市で学ぶ全ての児童生徒が、社会において自立できる基礎を養い、豊かな人生を送るとともに、その保護者の不安や迷いを和らげ、寄り添うものとなることを願っています。

令和7年4月

1 不登校の捉え方

「不登校児童生徒」とは？

「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」

(R4.12 改訂 生徒指導提要より)

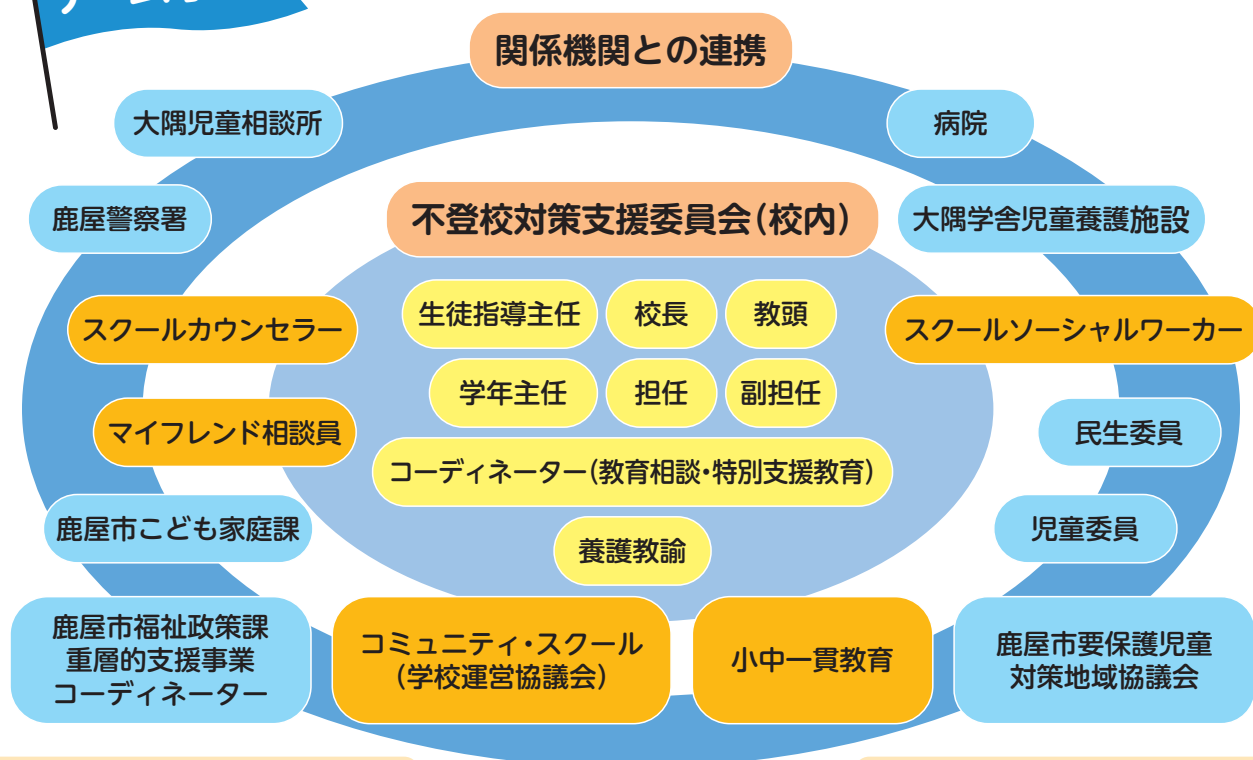
「不登校」の基本的な考え方

- ・ 取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ます。
- ・ 不登校は、問題行動ではありません。
- ・ 個々に応じた多様な支援が必要です。
- ・ 児童生徒が自ら進路を主体的に捉え、社会的に自立する方向を目指します。

2 不登校対策支援体制（「チーム学校」の視点に立って）

チーム学校

課題を一人で抱えこまず、情報を共有し、「チーム」で支援する。



各種相談機関

- ☐ かごしま教育ホットライン 24
- ☐ SNS による相談・通報窓口
- ☐ 県総合教育センター（教育相談課・特別支援教育研修課）
- ☐ かごしま子ども・若者総合相談センター
- ☐ 県こども総合療育センター
- ☐ 鹿児島いのちの電話

等

（「6 相談先(関係機関) 等一覧」参照）

鹿屋市教育委員会

- ・ 大隅教育事務所
- ・ 県教育委員会
- ・ 県総合教育センター
- ・ 文部科学省

ケース会議

児童生徒や学級への的確なアセスメントを行い、支援の目標や方向性、具体的な対応策等を検討して、実効的なチーム支援体制を構築します。

悩みや不安を抱える児童生徒を、多面的、多角的に捉え、各関係機関が効果的な関わりについて、検討します。

3 新たな不登校を生まないための取組（未然防止）

一人一人が、「授業が楽しい、分かりやすい」と感じたり、「友達と楽しく過ごしたい、早く学校に行きたい」と感じたりする学校であることが大事です。

(1) 魅力ある学校づくり（「わかる授業」・「支持的風土」）

居場所づくり

学校に
行きたい！



絆づくり

みんなと
過ごしたい！



I 「わかる授業」の実践

わかる授業とは、「子供たちが、授業内容を理解しやすく、効果的に学べる授業」であり、「子供たちが、学ぶ過程を楽しみながら、主体的に解決する授業」です。

児童生徒（子供たち）は

- ① 自分の意見や考えが大切にされていると感じている。
- ② 互いに認め合い、支え合い、励まし合っている。
- ③ 自ら考え、選択し、決定している。
- ④ 個性を尊重し、安全かつ安心して学習している。
- ⑤ 学習の成果や、自らの取組を振り返り、成長を実感している。

教師は

- ☐ 学習のきまりを大切にする授業づくりを行っている。
- ☐ 学習の見通しをもつ工夫をしている。
- ☐ 一人で考えたり、友達と話し合ったりする場を設けている。
- ☐ 多様な意見や、新たな考えを生み出す発問になるよう工夫している。
- ☐ 学んだことを振り返る時間を設けている。

II 「支持的風土」をもつ集団（学級）づくり

児童生徒（子供たち）は

- ① 自分の意見や考えを自由に述べたり、友達の意見や考えを共感的に受け止めたりする等、安心して過ごしている。
- ② 互いに尊重し合い、互いのよさや可能性を発揮し合っている。

教師は

- ☐ 学級のきまりを大切にする学級づくりを行っている。
- ☐ 一人一人を大切にされた言動をしている。
- ☐ 一人一人に活躍の場を設けている。
- ☐ 自ら考えて行動する場を設けている。
- ☐ よさや頑張りを賞賛している。



各園（幼・保・こ）⇒小⇒中⇒高の連携

- 情報交換（連絡会）
- 交流授業
- 体験入学
- オリエンテーション

等

地域で育成(地域学校協働活動)

- 子ども会
- 寺子屋
- 公民館
- 町内会
- 子ども食堂

等

(2) 構成的グループエンカウンター (SGE)

コミュニケーション能力を高め、温かい学級づくりに効果のある「SGE」を実践することで、自他を認め合い、自己有用感が育まれます。

- 1 **インストラクション**…… ねらいや内容、留意点等について説明します。
- 2 **エクササイズ**……… 活動の様子を観察し、ねらいに沿っているか確認します。
(例) 質問じゃんけん、アドジャントーク、バースデーチェーン等
- 3 **シェアリング**……… 児童生徒が、感じたことや考えたことを伝え合います。
- 4 **まとめ**……… 教師も自己開示し、感じたことや児童生徒への思いを伝えます。

(3) 観察・調査 (アンケート)・教育相談

児童生徒の小さな SOS を見逃さず、早期に気づき、早期に支援することが重要です。

① 観察



- 【登下校時】 登校を渋る 遅刻早退増加 挨拶に元気がない 友達と行動したがない
- 【朝や帰りの会】 体調不良をよく訴える 表情や目つきが違う 朝から眠いと訴える
- 【授業中】 忘れ物が多い ぼんやりする 友達と関わらない 話を聞かない
- 【給食時】 食べる量の極端な増減 食欲がない 友達との会話が減る
- 【昼休み時】 遊びたがない 一人を好む 保健室に行く 他学年の子とばかり遊ぶ
- 【部活動】 休みがちになる 練習意欲がない 友達と関わらない
- 【学校行事】 参加を拒む 不安を訴える 行事が近づくと体調不良や欠席が増える
- 【その他】 職員室によく来る できていたことができない 教室にいない

(文科省 H26 学校における子供の心のケア～サインを見逃さないために～)

② 調査 (アンケート)

- ・学期始めや行事前後、長期休暇前後
- ・年5回以上 (学期1回以上 + α)
- ・記名式か無記名式
- ・記入時の席配置、回収方法
- ・プライバシー保護に要配慮



③ 教育相談 (面談)



- 【定期相談】 年3回 (学期1回以上) 全員実施
- 【随時相談】 気になる児童生徒に適宜実施
- ・無理に聞き出そうとしない。
- ・話をじっくり聞き、共感的に接する。
- ・プライバシーの保護に配慮する。

不登校対応の重層的支援構造

児童生徒との日頃の関わりこそ、未然防止にとって大切です。具体的には、あいさつ、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や学校行事等を通した働きかけなどです。



困難課題対応的生徒指導 (特定の児童生徒)

自立支援 ケース会議、長期化への対応・SCによるカウンセリング・関係機関連携

課題早期発見対応 (一部の児童生徒)

早期発見・対応 欠席1日目→2日目→3日目・多角的な実態把握・保護者との連携 等

課題未然防止教育 (全ての児童生徒)

未然防止 教育相談体制の確立、情報共有、観察・SOSを出す力、受け止める力の向上 等

発達支持的生徒指導 (全ての児童生徒)

- 魅力ある学校づくり・学級づくり**
- ・「わかる授業」「楽しい授業」
 - ・「支持的風土」を持つ学校、学年、学級
 - ・ 幼保こ、小、中、高連携
 - ・ 地域と連携

4 学校における支援

(1) 早期発見・早期対応

欠席1日目 ◎ 電話連絡等

- ☐ 保護者や本人から理由を丁寧に聞く。
 - ・ 病状や体調、家庭での様子
 - ・ 体調以外に気になる（心配な）こと
- ☐ 翌日の授業や持ち物を丁寧に伝える。
 - ・ 安心して登校できるような声かけ

欠席2日目 ◎ 電話連絡等

- ◎ 学年主任、養護教諭等と共有
- ☐ 保護者や本人から具体的状況を把握する。
 - ・ 病状や体調等、様子
 - ・ 体調以外に気になる（心配な）こと
- ☐ 翌日の授業や持ち物を丁寧に伝える。
 - ・ 安心して登校できるような声かけ

欠席3日目 ◎ 家庭訪問

- ◎ 管理職等との共有
- ☐ 保護者、本人と面談を行う。
 - ・ 直接本人に会って、状況を把握
 - 本人や保護者が求める支援
 - ・ 体調以外に気になる（心配な）こと
- ☐ 管理職、生徒指導主任等と情報を共有する。
 - ・ SSW や MF 相談員、MF 指導員等と連携
 - ・ 不登校支援シートの作成準備
 - ・ 欠席の背景を把握

欠席4日目以降 ◎ 具体的な支援

- ☐ 不登校対策委員会、ケース会議を開催する。
 - ・ 欠席の背景調査
 - ・ 見立て（アセスメント）
 - ・ スクールカウンセラー（SC）等の活用
 - ・ 具体的な支援計画（支援シートによる）
 - ・ 組織的対応・役割分担等
- ☐ 電話連絡や計画的な家庭訪問を継続する。
- ☐ 市教委と連携を図る。
 - ・ 背景に「いじめ」はないか（重大事態の可能性）
 - ・ 速やかに報告、早期の効果的な対応

※ 欠席日数に関係なく、以下のような反応、気になる様子が見られた場合は、状況に応じて対応する。（SOSの早期発見から早期支援へ）

- ・ 落ち込む
- ・ 行きたくない
- ・ 理由が分からない
- ・ 人に会いたがらない

等



即時対応

家庭訪問や学校面談の実施

※留意点

- ・ 本人や保護者に寄り添う。
- ・ 今後の対応について学校と家庭で検討する。

[組織的対応例]

- ・ 本人、保護者への連絡
 - 学級担任
- ・ 関係生徒への聞き取り

等

- 学年部
- ・ 学習保障
 - 学習指導係
- ・ 校内支援ルームの運営
 - 生徒指導係
- ・ SSW 派遣依頼
 - 管理職
- ・ 市教委と連携
 - 管理職



(2) 不登校児童生徒への支援（長期化への対応）

① 学校以外の施設への定期的な参加ができる。

A 登校を支援

- ◆ 不登校支援シートを作成、目標や支援内容を共有します。
- ◆ 再登校の提案をしながら、学級での受入準備を進めます。
- ◆ 別室登校や時差登校など、登校方法を話し合います。

② 比較的気軽に外出できる。

B 教育支援センター等の活用

- ◆ 教育支援センターで学習支援を受けることを勧めます。
- ◆ 行事参加やオンラインでの授業参加等を提案します。

③ 家庭内では安定しているが、外出は難しい。

C 家庭学習の支援

- ◆ 生活習慣を整えたり、可能なら外出を勧めたりします。
- ◆ 自習課題やオンライン学習等を提案します。
- ◆ 保護者の不安、SC や MF 相談員等も寄り添います。

④ 部屋にこもり、家族ともほぼ顔を合わせない。

D 休養を優先

- ◆ 睡眠時間や食事の確保など、生活の安定を最優先します。
- ◆ SSW 等を活用し、関係機関と連携を図ります。

5 市教育委員会の取組と学校との連携

(1) 心の架け橋プロジェクト

- ・ 教育支援センター（マイフレンドルーム）設置
- ・ マイフレンド相談員9名、指導員3名配置
- ・ スクールソーシャルワーカー（SSW）3名派遣
- ・ スクールカウンセラー（SC）9名活用 ※県事業
- ・ 子どもサミット、いじめ第三者委員会

(2) 不登校児童生徒の保護者の会との連携

不登校児童生徒の保護者と情報交換を行い、悩みや意見を共有し、取組に生かしています。

(3) 施設通所や家庭学習の「出席扱い」

市教委の基準に照らして、学校長の判断のもと、指導要録上「出席扱い」とすることが可能です。

(4) 一人一台端末による 学びの保障、未然防止

- ・ R 8 年度に一人一台端末が、LTE モデルへ移行
（どこでもつながる）
- ・ 「心の健康観察」アラーム通知機能による早期発見
- ・ 「AIドリル」「学びポケット」等の学習アプリ活用

(5) 不登校対策プロジェクト（研修会）実施

市内小中学校で対応策を共有し、自校取組の参考にします。

6 相談先（関係機関）等一覧



鹿屋市ワンストップ
相談窓口
二次元コード ⇒



鹿屋市

- | | |
|--|------------------------------------|
| ☐ 教育委員会学校教育課 | TEL 31-1137（平日） |
| ☐ マイフレンドルーム（教育支援センター） | TEL 31-1370（火～金） |
| ☐ 市教育相談室 | TEL 44-8799（平日） / TEL 0120-555-655 |
| ☐ 市こども家庭課家庭児童相談室 | TEL 35-1061（平日） |
| ☐ 市福祉政策課 | TEL 31-1113（平日） |
| ☐ 大隅児童相談所 | TEL 43-7011（毎日） |
| ☐ 児童家庭センターつながり | TEL 0800-200-1399（平日） |
| ☐ 肝属地区障がい者基幹相談支援センター | TEL 35-4801（月～土） |
| ☐ 鹿屋警察署生活安全課 | TEL 44-0110（平日） |

鹿児島県

- | | |
|--|--|
| ☐ かがしま教育ホットライン 24
⇒ 電話相談専用、24 時間対応 | TEL 0120-783-574（毎日）
なやみっこなし
なやみいおう
TEL 0120-0-78310（毎日）
学校生活や教育に関する相談 |
| ☐ SNS による相談・通報窓口
⇒ SNS 相談専用
様々な悩みについて相談
⇒ 悩み相談 17:00～21:30
学校通報 24 時間 |   |
| ☐ 県総合教育センター教育相談課
⇒ 鹿児島市宮之浦町 | TEL 099-294-2788（平日）
対面での来所相談（電話予約、保護者同伴） |
| ☐ かがしま子ども・若者総合相談センター
⇒ 鹿児島市鴨池新町 | TEL 099-257-8230（火～日）
● https://www.soudancenter-k.com/
電話・来所（要予約）・メール 子供若者に関する相談 |
| ☐ 県こども総合療育センター
⇒ 鹿児島市桜ヶ丘6丁目 | TEL 099-265-2400（平日）
電話・来所（要予約）子供の発達に関する相談 |
| ☐ 鹿児島いのちの電話
⇒ 電話相談専用、24 時間 | TEL 099-250-7000（毎日）
子供、大人が抱える様々な相談に対応 |